



# 「いのちのはなし」 子ども向け 本のリスト



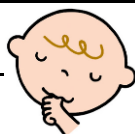
吹田市立図書館発行  
2024年7月

## ★赤ちゃんはどうやって生まれてくるの？

P	<a href="#">あかちゃんはどうやってできるの？ すべてのかぞくとすべてのこどものためのほん</a>	コーリー・シルヴァーバーグ/ 文 フィオナ・スミス/絵	岩波書店 2023.6
赤ちゃんはなにもないところから生まれてくるわけではありません。それは卵子と精子がであい…。この本には赤ちゃんが生まれてくるまでの様子のほか、世の中には卵子や精子、子宮をもっていない人もいることなども書かれています。この本をきっかけにぜひ親子で一緒に「生」や「性」のことについて、考えてみてください。			
P	<a href="#">あかちゃんがうまれるまで</a>	遠見 才希子/作 相野谷 由起/絵	童心社 2022.3
ぼくのママに赤ちゃんができたよ。でも赤ちゃんはどこからどうやって生まれてくるのだろう…。この本には、おかあさんのおなかの中に赤ちゃんができてから生まれるまでの様子が、ものがたりで書かれています。また本の最後にはたいせつな性とからだについてのくわしい説明もあります。			
P	<a href="#">ようこそ!あかちゃん せかいじゅうの家族のはじまりのおはなし</a>	レイチェル・グリーナー/文 クリア・オーウェン/絵	大月書店 2021.1
赤ちゃんが生まれると、男の子とか女の子ってよばれるよね。これって、おかあさんのお腹に赤ちゃんができてくことと関係があるのかな?この本は、大人になって、赤ちゃんがほしいと思ったときにどうするのか、から始まります。そして赤ちゃんが生まれる方法や、家族になる方法が一つじゃないってことも、教えてくれます。			
P	<a href="#">赤ちゃんはどうやってうまれるの？ みんなだいじなのち</a>	フランソワーズ・ローラン/作 セバスチャン・シェブレ/作	汐文社 2020.9
おんなのひとのおおきなおなかに赤ちゃんがいます。ひとつの卵が女の人のおなかの中で育って、赤ちゃんになるのです。赤ちゃんはどうやっておなかにはいったのかな。どうやっておおきくなっていくのかな。カラフルなイラストと文で書かれています。			
K491	<a href="#">知らなかった!おなかのなかの赤ちゃん図鑑</a>	増崎 英明/監修	岩崎書店 2022.9
私たち人間はどうやって生まれてくるのでしょうか。それはお母さんのおなかのなかにあるたった一つの細胞から始まります。お母さんのおなかの中に赤ちゃんができてから生まれるまでの様子が、たくさんのわかりやすい絵や写真でくわしく書かれています。			
K491	<a href="#">もっと知りたい!赤ちゃんのこと   おなかのなかの赤ちゃん</a>	松村 富代/著 江頭 路子/絵	岩崎書店 2014.1
いのちは、とっても小さな「いのちのもと」からはじまります。お母さんのおなかのなかで「いのちのもと」はどんどんおおきくなって、赤ちゃんになります。おなかの中の赤ちゃんのくらしや、うまれるときに、赤ちゃんとお母さんはどんなふうにごんばれるのかなど、絵と超音波写真でくわしく書かれています。			

K491	<a href="#">いのちってスゴイ!赤ちゃんの誕生 おなかの中のドラマと生きる力</a>	大葉 ナナコ/[著]	素朴社 2008.3
ひとつの細胞からいのちが始まります。その細胞が、どんなふう成長していくのかが、赤ちゃんの成長の様子と、お母さんのおなかの中の様子と、両方ならべてわかりやすいイラストで描かれています。赤ちゃんが生まれるとき、どうやってお母さんのおなかから出てくるのかも、くわしく書かれています。			
K491	<a href="#">赤ちゃんが生まれる いのちの冒険旅行</a>	ニルス・タヴェルニエ/作	ブロンズ新社 2007.6
赤ちゃんは、いのちの冒険旅行をして生まれてきます。冒険はお母さんのおなかのなかで、生命の卵ができるところから始まります。そして生命が育ち始めて、だんだんと人間の姿になって、10か月後に赤ちゃんが産まれるまでの様子が、きれいなCG写真とくわしい説明で書かれています。			

## ★赤ちゃんがうまれたよ



K491	<a href="#">赤ちゃんのふしぎ科学ずかん</a>	高橋 孝雄/監修	あすなろ書房 2021.1
赤ちゃんの耳はいつから聞こえるの?なぜなんでもなめるの?はじめてわらうのはいつ?お母さんのおなかの中にいる、生まれる前の赤ちゃん、生まれてから1年くらいの間の赤ちゃんを観察した様子が、絵と写真と文章でくわしく書かれています。			

## ★いのちは続いている

P	<a href="#">きみはどこからやってきた? 宇宙誕生からはじまるいのちのものがたり</a>	フィリップ・バンティング/作	KADOKAWA 2020.10
はるか昔に宇宙のたねが大ばくはつして、宇宙のもとになるつぶがうまれた。いま世界にあるものは、わたしたちも、地球も、わたしたちの周りにもあるものなんかも、ぜんぶ、このつぶがもとになってできているんだ。どうやって地球ができて、生物が誕生して、人間に進化して、わたしたちにつながっていくのか。やさしく、わかりやすく、親しみやすい絵でかかれています。			
P	<a href="#">せいめいのれきし 改訂版 地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし</a>	バージニア・リー・バートン/文・絵	岩波書店 2015.7
想像もできないくらい大昔に、太陽がうまれました。そのあと、46億年前にうまれた地球には、最初はいきものが住めませんでした。それから何億年もかけてだんだんといきものが住めるようになって、生物が生まれ、恐竜やじんげんがあらわれます。私たちの時代になるまでの生命の歴史が、冥王代から始まり、新生代までの時代ごとにくわしくわかりやすく、やさしい絵で書かれています。			
K460	<a href="#">いのちのひろがり</a>	中村 桂子/文 松岡 達英/絵	福音館書店 2017.3
私たちはお母さんから生まれました。お母さんとお父さんも、それぞれのお母さんとお父さんから生まれました。こうしてたどっていくと、20万年くらい前に生まれた人たちにたどりつきます。その人たちをたどっていくと、地球上にはじめて生まれた1個の細胞にたどりつきます。地球が生まれ、細胞が生まれて、受けわたされてきた「いのち」の物語がわかりやすく書かれています。			